



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 株式会社琉球銀行

上場取引所 東 福

コード番号 8399 URL <https://www.ryugin.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役頭取 (氏名) 川上 康

問合せ先責任者 (役職名) 総合企画部長 (氏名) 菊地 毅

TEL 098-866-1212

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

特定取引勘定設置の有無 無

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 経常収益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|--------|------|-------|------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2023年3月期第3四半期 | 43,540 | 2.1 | 6,385 | △5.7 | 4,423 | △9.7 |
| 2022年3月期第3四半期 | 42,629 | △0.3 | 6,770 | 72.6 | 4,900 | 86.6 |

(注)包括利益 2023年3月期第3四半期 1,010百万円 (△81.1%) 2022年3月期第3四半期 5,335百万円 (74.9%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年3月期第3四半期 | 104.21 | 103.90 |
| 2022年3月期第3四半期 | 114.82 | 114.43 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-----------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2023年3月期第3四半期 | 2,993,649 | 134,571 | 4.5 |
| 2022年3月期 | 3,064,865 | 135,018 | 4.4 |

(参考)自己資本 2023年3月期第3四半期 134,411百万円 2022年3月期 134,839百万円

(注)「自己資本比率」は、(期末純資産の部合計-期末新株予約権)を期末資産の部の合計で除して算出しております。

なお、本「自己資本比率」は、自己資本比率告示に定める自己資本比率ではありません。

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期 | — | 17.50 | — | 17.50 | 35.00 |
| 2023年3月期 | — | 17.50 | — | | |
| 2023年3月期(予想) | | | | 17.50 | 35.00 |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 経常収益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|------|-------|-----|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 56,000 | △1.8 | 8,000 | 0.9 | 5,500 | △1.6 | 129.66 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|------------|--------------|------------|--------------|
| 2023年3月期3Q | 43,108,470 株 | 2022年3月期 | 43,108,470 株 |
| 2023年3月期3Q | 641,270 株 | 2022年3月期 | 690,386 株 |
| 2023年3月期3Q | 42,452,411 株 | 2022年3月期3Q | 42,681,873 株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当行が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

[添付資料の目次]

| | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | P. 2 |
| (1) 経営成績に関する定性的情報 | P. 2 |
| (2) 財政状態に関する定性的情報 | P. 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | P. 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | P. 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | P. 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | P. 4 |
| 四半期連結損益計算書 | P. 4 |
| 四半期連結包括利益計算書 | P. 5 |
| (3) 継続企業の前提に関する注記 | P. 5 |
| (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | P. 5 |
| (5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | P. 5 |
| (6) 追加情報 | P. 7 |
| 2023年3月期 第3四半期財務・業績の概況説明資料 | P. 8 |
| 1. 損益の概況【連結】 | P. 8 |
| 2. 損益の概況【単体】 | P. 9 |
| (1) 概況 | P. 9 |
| (2) 実質業務純益 | P.10 |
| (3) 株式等関係損益(3勘定戻) | P.10 |
| (4) ネット与信費用 | P.10 |
| (5) 四半期純利益 | P.10 |
| 【参考】顧客向けサービス利益 | P.10 |
| 3. 預金・貸出金等の状況 | P.11 |
| (1) 預金(単体・末残および利回り)の推移 | P.11 |
| (2) 預かり資産(単体・末残)の推移 | P.11 |
| (3) 貸出金(単体・末残および利回り)の推移 | P.12 |
| (4) 時価のある有価証券の評価差額(連結)の推移 | P.12 |
| (5)-1 金融再生法開示債権(単体)の推移 | P.13 |
| (5)-2 自己査定の方考え方 | P.13 |
| (6) 自己資本比率(連結・単体)の推移 | P.13 |
| (7) カード業務利益(単体)の推移 | P.14 |
| (8) りゅうぎんVisaデビットカード会員数および加盟店契約数の推移 | P.14 |
| (9) コンサルティング業務利益(単体)の推移 | P.15 |
| (10) リース業務利益(連結)の推移 | P.15 |
| <参考> 預金・貸出金等の状況【数値編】 | P.16 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

経常収益は、リース業における売上高の減少等があったものの、カードビジネス関連手数料等の役務取引等収益及び有価証券利息配当金の増加により前年同期比9億10百万円増加の435億40百万円となりました。

一方、経常費用は、主に米国金利上昇による外貨調達コストの増加等により前年同期比12億95百万円増加の371億54百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比3億84百万円減少の63億85百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比4億76百万円減少の44億23百万円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

財政状態について、当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比712億16百万円減少の2兆9,936億49百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末比4億47百万円減少の1,345億71百万円となりました。

主要勘定としては、預金等（譲渡性預金を含む）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による貯蓄性向の高まり等により個人預金を中心に増加したことから、前連結会計年度末比892億21百万円増加の2兆6,874億80百万円となりました。借入金 は日本銀行からの借入を9月末に返済したこと等により前連結会計年度末比1,893億60百万円減少の1,085億11百万円となりました。貸出金は法人向け貸出や住宅ローン等を中心に増加したことにより、前連結会計年度末比83億95百万円増加の1兆8,128億10百万円となりました。有価証券は国債や外国債券を中心とした債券等の取得により前連結会計年度末比395億57百万円増加の4,037億36百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の連結業績予測につきましては、2022年5月11日に公表した値から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

（1）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 現金預け金 | 770,553 | 639,271 |
| コールローン及び買入手形 | - | 490 |
| 商品有価証券 | - | 3 |
| 金銭の信託 | 518 | 1,407 |
| 有価証券 | 364,179 | 403,736 |
| 貸出金 | 1,804,414 | 1,812,810 |
| 外国為替 | 6,208 | 9,260 |
| リース債権及びリース投資資産 | 21,510 | 22,239 |
| その他資産 | 66,272 | 70,626 |
| 有形固定資産 | 23,246 | 24,789 |
| 無形固定資産 | 4,466 | 4,086 |
| 退職給付に係る資産 | 1,032 | 1,005 |
| 繰延税金資産 | 5,651 | 6,591 |
| 支払承諾見返 | 8,283 | 8,072 |
| 貸倒引当金 | △11,471 | △10,743 |
| 資産の部合計 | 3,064,865 | 2,993,649 |
| 負債の部 | | |
| 預金 | 2,587,046 | 2,668,712 |
| 譲渡性預金 | 11,213 | 18,768 |
| 債券貸借取引受入担保金 | - | 27,315 |
| 借入金 | 297,872 | 108,511 |
| 外国為替 | 78 | 21 |
| その他負債 | 21,967 | 24,458 |
| 賞与引当金 | 674 | 211 |
| 役員賞与引当金 | 12 | - |
| 退職給付に係る負債 | 223 | 573 |
| 役員退職慰労引当金 | 14 | 27 |
| 睡眠預金払戻損失引当金 | 22 | 21 |
| 偶発損失引当金 | 99 | 92 |
| ポイント引当金 | 175 | 173 |
| 利息返還損失引当金 | 215 | 172 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 1,947 | 1,944 |
| 支払承諾 | 8,283 | 8,072 |
| 負債の部合計 | 2,929,846 | 2,859,077 |
| 純資産の部 | | |
| 資本金 | 56,967 | 56,967 |
| 資本剰余金 | 14,220 | 14,225 |
| 利益剰余金 | 64,252 | 67,162 |
| 自己株式 | △575 | △534 |
| 株主資本合計 | 134,864 | 137,820 |
| その他有価証券評価差額金 | △775 | △4,222 |
| 土地再評価差額金 | 776 | 804 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △25 | 8 |
| その他の包括利益累計額合計 | △24 | △3,409 |
| 新株予約権 | 179 | 160 |
| 純資産の部合計 | 135,018 | 134,571 |
| 負債及び純資産の部合計 | 3,064,865 | 2,993,649 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 経常収益 | 42,629 | 43,540 |
| 資金運用収益 | 20,914 | 21,156 |
| (うち貸出金利息) | 19,880 | 19,535 |
| (うち有価証券利息配当金) | 837 | 1,398 |
| 役員取引等収益 | 7,852 | 8,468 |
| その他業務収益 | 12,680 | 12,375 |
| その他経常収益 | 1,183 | 1,540 |
| 経常費用 | 35,859 | 37,154 |
| 資金調達費用 | 138 | 568 |
| (うち預金利息) | 89 | 59 |
| 役員取引等費用 | 3,631 | 3,839 |
| その他業務費用 | 11,119 | 12,014 |
| 営業経費 | 20,285 | 20,150 |
| その他経常費用 | 683 | 581 |
| 経常利益 | 6,770 | 6,385 |
| 特別利益 | 548 | 0 |
| 固定資産処分益 | 0 | 0 |
| 退職給付制度改定益 | 548 | - |
| 特別損失 | 242 | 53 |
| 固定資産処分損 | 109 | 49 |
| 減損損失 | 133 | 4 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 7,076 | 6,332 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,457 | 1,356 |
| 法人税等調整額 | 718 | 552 |
| 法人税等合計 | 2,175 | 1,908 |
| 四半期純利益 | 4,900 | 4,423 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 4,900 | 4,423 |

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日) |
|-------------------------------|--|--|
| 四半期純利益 | 4,900 | 4,423 |
| その他の包括利益 | 434 | △3,413 |
| 其他有価証券評価差額金 | 91 | △3,447 |
| 退職給付に係る調整額 | 343 | 34 |
| 四半期包括利益 | 5,335 | 1,010 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 5,335 | 1,010 |

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当ありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当ありません。

(5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

これにより投資信託財産について市場価格の有無、重要な解約制限の有無及び基準価額を時価とみなす取扱いの可否等の判定を行い、時価を算定することといたしました。

なお、この変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

取得による企業結合

当行は2022年8月26日の取締役会において、株式会社リウコム（以下「旧リウコム」。）が会社分割（新設分割）の方法により設立し、IT事業を承継させる新会社（以下「新リウコム」。）の株式を100%取得することについて決議し、同日、旧リウコムとの間で株式譲渡契約を締結いたしました。その後、株式譲渡契約に基づき2022年12月1日に株式を取得し連結子会社としました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

- | | |
|------------|----------|
| ① 被取得企業の名称 | 株式会社リウコム |
| ② 事業の内容 | IT事業 |

(2) 企業結合を行った主な理由

近時、金融機関や事業会社を取り巻く環境は大きく変化しており、特に、デジタルトランスフォーメーションの進展により、当行グループ及びグループのお客さまのデジタル戦略推進ニーズは今後ますます多様化・複雑化・高度化していくことが見込まれます。

このような状況のもと、旧リウコムのIT技術力と当行の事業性評価に基づくソリューション提案力を融合することにより、地元企業の経営課題の解決及びIT化の推進に貢献するため、会社分割により旧リウコムのIT事業を承継する新設会社である新リウコムを設立し他業銀行業高度化等会社の認可を取得したうえで、新リウコムを当行の完全子会社とするものです。

(3) 企業結合日

2022年12月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

株式会社リウコム

(6) 取得した議決権比率

100%取得

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当行が現金を対価として株式を取得したことによりです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2022年12月1日から2022年12月31日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内容

被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

| | | |
|-------|----|----------|
| 取得の対価 | 現金 | 2,000百万円 |
| 取得原価 | | 2,000百万円 |

2023年3月期 第3四半期財務・業績の概況説明資料

1. 損益の概況【連結】

連結の経営成績は、役務取引等利益は増加したものの、資金利益及びその他業務利益が減少したことで、経常利益は前年同期を3億84百万円下回る63億85百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を4億76百万円下回る44億23百万円となりました。

銀行単体は、有価証券利息配当金や役務取引等利益の増加があったものの、市場関連損益（3勘定戻除く）の減少等により、実質業務純益は前年同期を7億98百万円下回る43億35百万円となりました。

また経常利益は、ネット与信費用の減少があったものの、実質業務純益が減少したため、前年同期を26百万円下回る54億4百万円となりました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期を2億46百万円下回る38億21百万円となりました。

なお、2023年3月期通期の連結並びに個別の業績予測については、2022年5月11日に公表した値からの変更はありません。

【連結会社別内訳】

(百万円)

| | | 2023年3月期 第3四半期 | | | | | | | | |
|------------------|----|----------------|--------|--------|-------|-------|--------|-------|--------|--|
| | | (9カ月累計) | | 琉球銀行 | りゅうぎん | りゅうぎん | 琉球 | OCS | | |
| | | 前年同期比 | | DC | 保証 | リース | | ※2 | | |
| 経常収益 | 1 | 43,540 | 910 | 29,901 | 1,327 | 582 | 11,564 | 1,397 | △1,233 | |
| 連結粗利益※1 | 2 | 25,578 | △978 | 22,435 | 882 | 558 | 969 | 1,032 | △300 | |
| 資金利益 | 3 | 20,587 | △187 | 20,732 | 61 | 0 | △92 | 105 | △219 | |
| 役務取引等利益 | 4 | 4,629 | 408 | 2,876 | 821 | 558 | 9 | 439 | △76 | |
| その他業務利益 | 5 | 361 | △1,199 | △1,174 | - | - | 1,052 | 486 | △4 | |
| 経費（除く臨時損益） | 6 | 20,101 | △98 | 18,099 | 544 | 85 | 629 | 877 | △135 | |
| 貸倒償却引当費用 | 7 | 114 | △85 | 112 | - | - | - | 1 | - | |
| 貸出金償却 | 8 | 67 | △67 | 65 | - | - | - | 1 | - | |
| 偶発損失引当金繰入額 | 9 | 46 | 50 | 46 | - | - | - | - | - | |
| その他の与信費用 | 10 | - | △67 | - | - | - | - | - | - | |
| 貸倒引当金戻入益 | 11 | 661 | 249 | 917 | △146 | 17 | 16 | △142 | △0 | |
| 償却債権取立益 | 12 | 175 | △33 | 141 | 3 | - | - | 30 | - | |
| 株式等関係損益 | 13 | 199 | 228 | 199 | - | - | - | - | - | |
| その他の臨時損益 | 14 | △13 | △34 | △76 | 73 | 5 | 23 | 33 | △73 | |
| 経常利益 | 15 | 6,385 | △384 | 5,404 | 268 | 497 | 379 | 74 | △238 | |
| 特別損益 | 16 | △52 | △358 | △53 | - | △0 | 0 | △0 | △0 | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 17 | 6,332 | △743 | 5,350 | 268 | 497 | 380 | 74 | △238 | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 18 | 1,356 | △100 | 950 | 77 | 154 | 104 | 50 | 18 | |
| 法人税等調整額 | 19 | 552 | △165 | 578 | △1 | 12 | 11 | △34 | △13 | |
| 法人税等合計 | 20 | 1,908 | △266 | 1,529 | 75 | 166 | 116 | 15 | 4 | |
| 四半期純利益 | 21 | 4,423 | △476 | 3,821 | 192 | 330 | 263 | 58 | △243 | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 22 | 4,423 | △476 | 3,821 | 192 | 330 | 263 | 58 | △243 | |

グループ総合力の発揮を目的に、連結子会社の貢献度を表すために本表を記載しております。

※1 連結粗利益＝（資金運用収益－資金調達費用）＋（役務取引等収益－役務取引等費用）＋（その他業務収益－その他業務費用）

※2 「その他」には内部消去等の他、りゅうぎんビジネスサービスク、（株）りゅうぎん総合研究所及び（株）リウコムが含まれております。

（参考）

| | | | | | | | | |
|----------------------|-------|------|-------|-----|-----|-----|-----|------|
| 連結業務純益（除く一般貸倒引当金繰入額） | 5,476 | △880 | 4,335 | 337 | 473 | 339 | 154 | △164 |
| 連結業務純益※3 | 5,476 | | | | | | | |

※3 連結業務純益＝連結粗利益－経費（除く臨時損益）－一般貸倒引当金繰入額

2. 損益の概況【単体】

(1) 概況

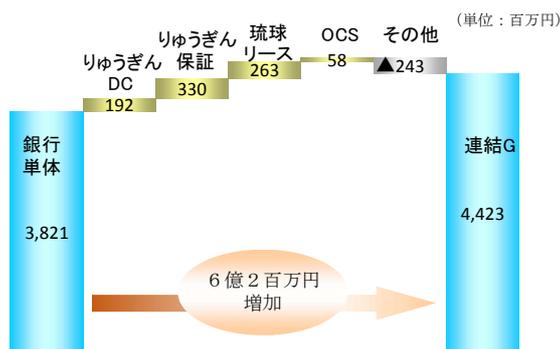
| | | 項番 | 2023年3月期 第3四半期 (9カ月累計) (A) | 前年同期比 (A)-(B) | 2022年3月期 第3四半期 (9カ月累計) (B) | (単位:百万円) 2023年3月期 通期予想 (12カ月累計) |
|----------------------|-----------------|----|-------------------------------------|------------------|-------------------------------------|--|
| 経常 | 収益 | 1 | 29,901 | 1,376 | 28,525 | 37,400 |
| 業務 | 粗利 | 2 | 22,435 | △1,014 | 23,449 | |
| | 資金利益 | 3 | 20,732 | △172 | 20,904 | |
| | 役員取引等利益 | 4 | 2,876 | 456 | 2,420 | |
| | その他業務利益 | 5 | △1,174 | △1,298 | 124 | |
| | うち国債等債券損益(5勘定戻) | 6 | △604 | △678 | 74 | |
| | うち売却益 | 7 | 269 | △7 | 276 | |
| | うち売却損 | 8 | 841 | 671 | 170 | |
| | うち償還損 | 9 | 33 | 2 | 31 | |
| 経費(除く臨時処理分) | | 10 | 18,099 | △217 | 18,316 | |
| | 人件費 | 11 | 7,924 | 78 | 7,846 | |
| | 物件費 | 12 | 8,833 | △246 | 9,079 | |
| | 税金 | 13 | 1,342 | △47 | 1,389 | |
| 実質業務純益※1 | | 14 | 4,335 | △798 | 5,133 | 6,900 |
| コア業務純益※2 | | 15 | 4,940 | △118 | 5,058 | |
| | 除く投資信託解約損益 | 16 | 4,948 | △151 | 5,099 | |
| 一般貸倒引当金繰入額 | | 17 | - | - | - | |
| 業務純益 | | 18 | 4,335 | △798 | 5,133 | 6,900 |
| 臨時損益 | | 19 | 1,069 | 772 | 297 | |
| | うち株式等損益(3勘定戻) | 20 | 199 | 228 | △29 | |
| | 売却益 | 21 | 338 | 283 | 55 | |
| | 売却損 | 22 | 138 | 90 | 48 | |
| | 償却 | 23 | 0 | △35 | 35 | |
| | うち不良債権処理額 | 24 | 112 | △79 | 191 | |
| | うち貸倒引当金戻入益 | 25 | 917 | 377 | 540 | |
| | うち一般貸倒引当金 | 26 | 1,014 | 456 | 558 | |
| | うち個別貸倒引当金 | 27 | △97 | △79 | △18 | |
| | うち償却債権取立益 | 28 | 141 | △11 | 152 | |
| 経常利益 | | 29 | 5,404 | △26 | 5,430 | 6,700 |
| 特別損益 | | 30 | △53 | △358 | 305 | |
| 税引前四半期純利益 | | 31 | 5,350 | △386 | 5,736 | |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 32 | 950 | △71 | 1,021 | |
| 法人税等調整額 | | 33 | 578 | △69 | 647 | |
| 法人税等合計 | | 34 | 1,529 | △140 | 1,669 | |
| 四半期(当期)純利益 | | 35 | 3,821 | △246 | 4,067 | 4,800 |
| ネット与信費用(17+24-25-28) | | 36 | △946 | △445 | △501 | |
| 顧客向けサービス利益※3 | | 37 | 4,092 | 409 | 3,683 | |

※1 「実質業務純益」は、一般貸倒引当金繰入額を除く業務純益。

※2 「コア業務純益」は、一般貸倒引当金繰入額及び国債等債券損益(5勘定戻)を除く業務純益。

※3 「顧客向けサービス利益」=預貸金収支+役員利益-経費(経費のうち人件費は臨時処理分控除前)

親会社株主に帰属する四半期純利益内訳



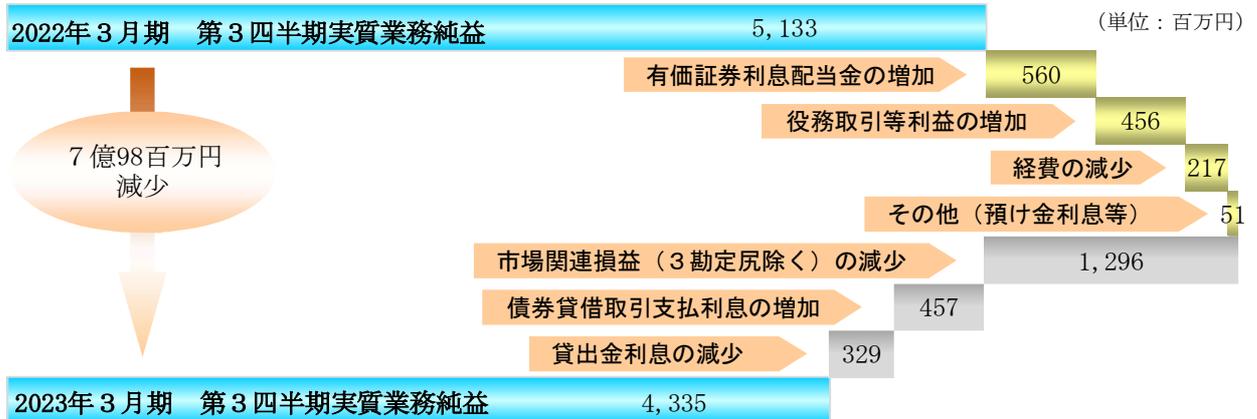
※「その他」には内部消去等の他、りゅうぎんビジネスサービス㈱、㈱りゅうぎん総合研究所及び㈱りゅうぎんウコムが含まれております。

自己資本比率及び連単倍率



(2) 実質業務純益

実質業務純益は、有価証券利息配当金や役務取引等利益の増加があったものの、市場関連損益（3勘定戻除く）の減少等により前年同期を7億98百万円下回りました。



貸出金利息は、資金需要の低迷や貸出金利回りの低下により、前年同期を3億29百万円下回りました。

預金利息は、総預金に占める流動性預金の割合が増加したことによる利回りの低下から、前年同期を29百万円下回りました。

有価証券利息配当金は、利回り改善のための入替等により外国債券を中心に平残が増加したこと及び利回りが上昇した結果、前年同期を5億60百万円上回りました。

役務取引等利益は、法人関連手数料及びカードビジネス関連手数料収入が増加したこと等により前年同期を4億56百万円上回りました。

経費は、預金保険料が料率引き下げにより減少したこと等により前年同期を2億17百万円下回りました。

市場関連損益（3勘定戻除く）は、主に米国金利上昇による外国為替売買損益（外貨調達コスト）の増加及び国債等債券損益（5勘定戻）が利回り改善のための入替による売却損の計上により前年同期を12億96百万円下回りました。

債券貸借取引支払利息（外貨調達コスト）は、主に米国金利上昇による増加で前年同期を4億57百万円上回りました。

(3) 株式等関係損益（3勘定戻）

株式等関係損益（3勘定戻）は、ETF等の売却益計上により前年同期を2億28百万円上回りました。

(4) ネット与信費用[※]

ネット与信費用は、各経済指標値の改善に伴い、一般貸倒引当金が大幅に戻入したことにより、前年同期を4億45百万円下回りました。

※「ネット与信費用」は、一般貸倒引当金繰入額を含む不良債権処理額から貸倒引当金戻入益および償却債権取立益を差し引いたもの。

(5) 四半期純利益

以上の結果、経常利益は前年同期を26百万円下回る54億4百万円となり、四半期純利益は前年同期を2億46百万円下回る38億21百万円となりました。

【参考】顧客向けサービス利益

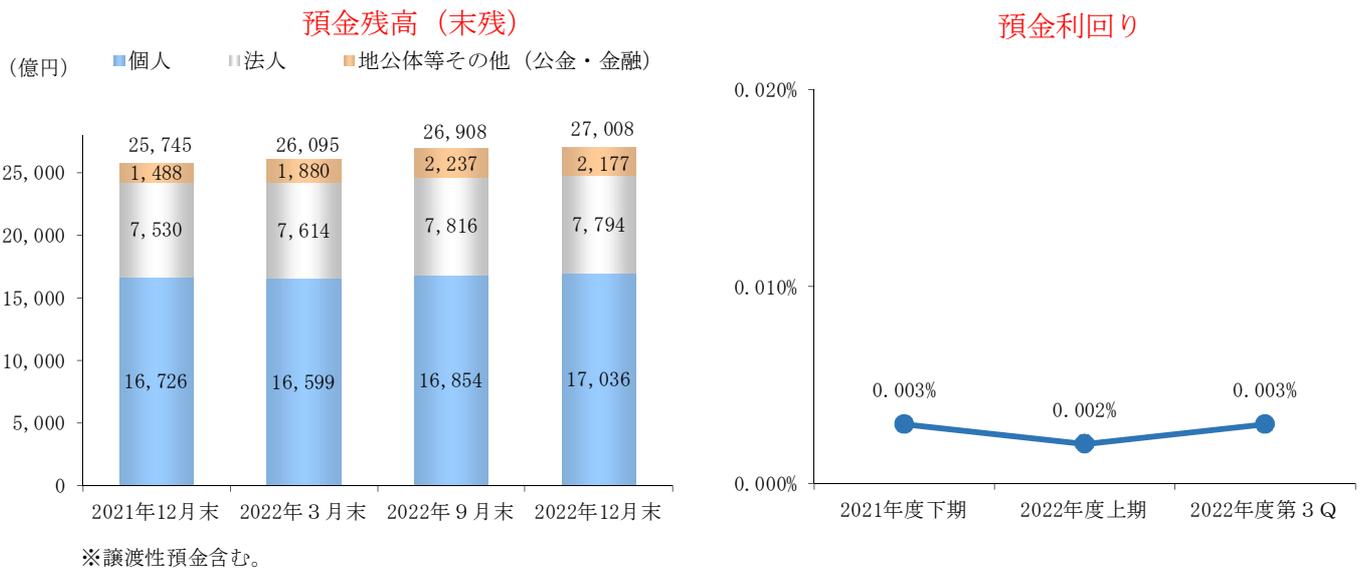
顧客向けサービス利益は、預貸金収支の減少があったものの役務取引等利益の増加及び経費の減少により、前年同期を4億9百万円上回る40億92百万円となりました。

3. 預金・貸出金等の状況

(1) 預金（単体・末残および利回り）の推移

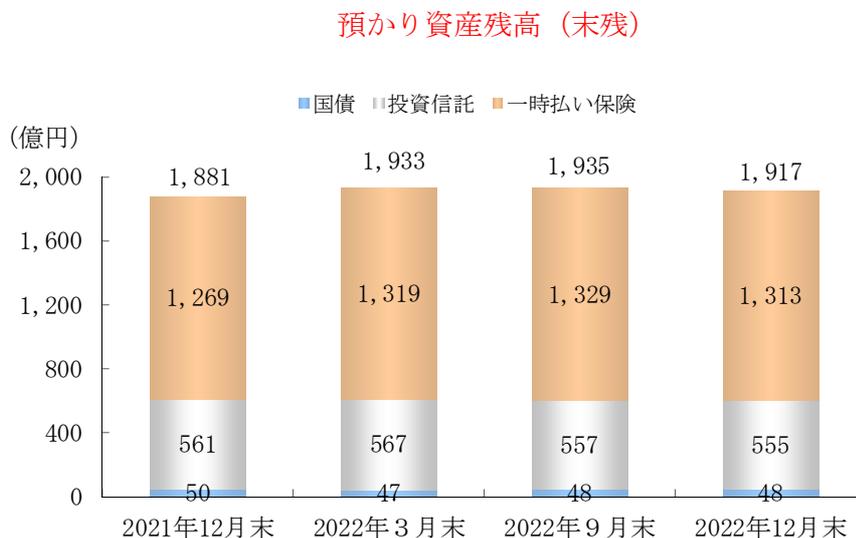
預金（末残）は、新型コロナ禍において、個人預金の残高が依然として高いまま推移しており、前年同期末を1,263億円、前年度末を913億円上回る2兆7,008億円となりました。

預金利回りは、外貨預金の金利上昇により、2022年度上期より0.001ポイント増加しました。



(2) 預かり資産（単体・末残）の推移

預かり資産は、投資信託、一時払い保険ともに販売額は増加したものの、円安基調の影響で満期到来後の外貨建保険の解約が増加したこと並びに基準価額の下落に伴い投資信託の残高が減少したことで、前年度末を16億円下回る1,917億円となりました。



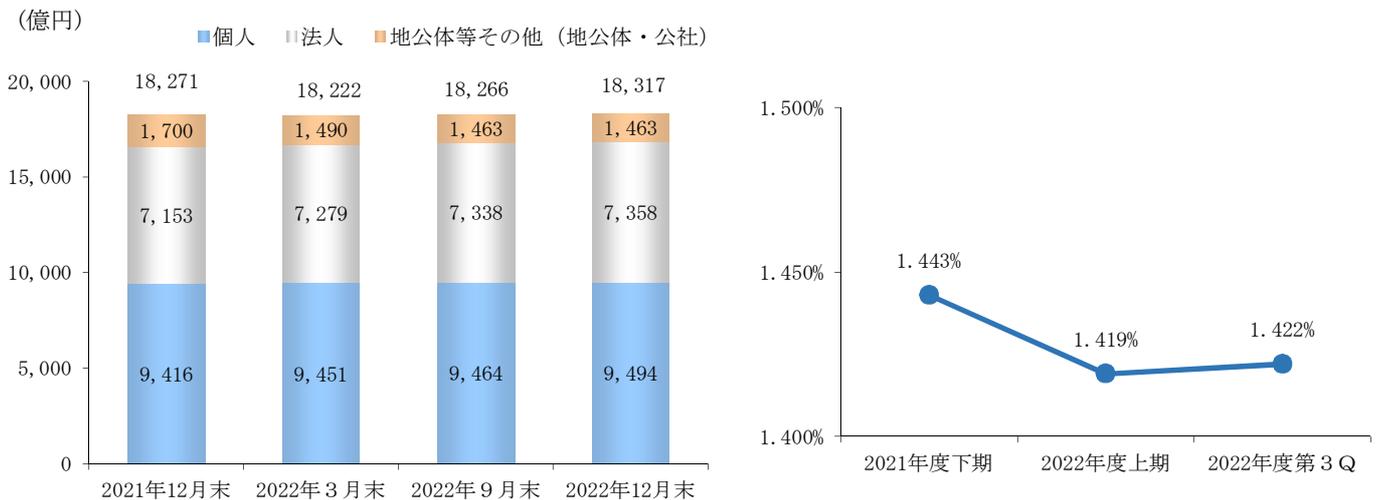
(3) 貸出金（単体・未残および利回り）の推移

貸出金（未残）は、個人向け貸出では住宅ローンは増加基調。法人向け貸出についても運転資金の増加により残高が増加したことから前年同期末を46億円、前年度末を95億円上回る1兆8,317億円となりました。

貸出金利回りは、2022年度上期と同水準の1.422%（0.003ポイント増加）となりました。

貸出金残高（未残）

貸出金利回り

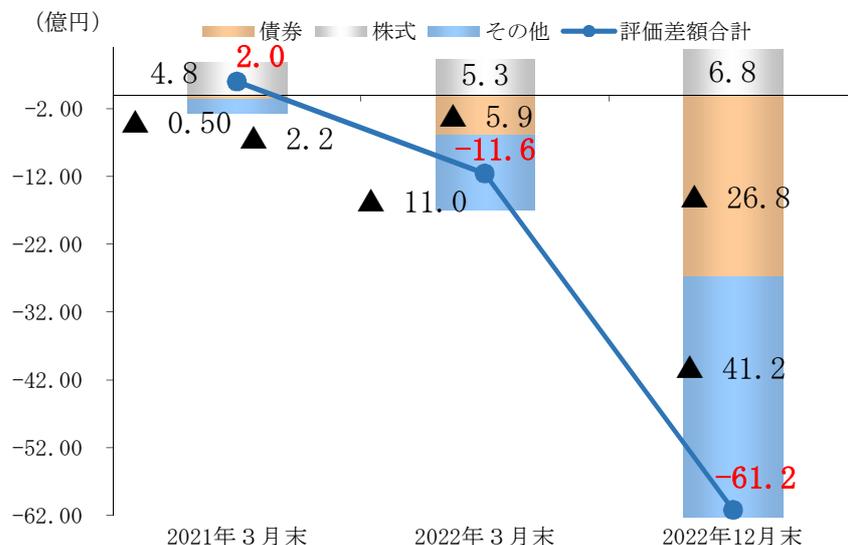


(4) 時価のある有価証券の評価差額（連結）の推移

国内外の市場金利の上昇により、国内債券や外国債券（その他有価証券）及び外国債券を内包した投資信託（その他有価証券）の評価損が増加した結果、有価証券評価差額全体では前年度末比約50億円の減少となりました。

なお、保有する国内債券、外国債券のデュレーションは平均で4年以内にとどめており、評価損が実現することによる決算への影響は限定的です。世界的な金利上昇が続くと評価損がある程度拡大する可能性はありますが、利回りの高い債券を組み入れ有価証券ポートフォリオの改善を図りながら、収益拡大を目指します。

時価のある有価証券の評価差額

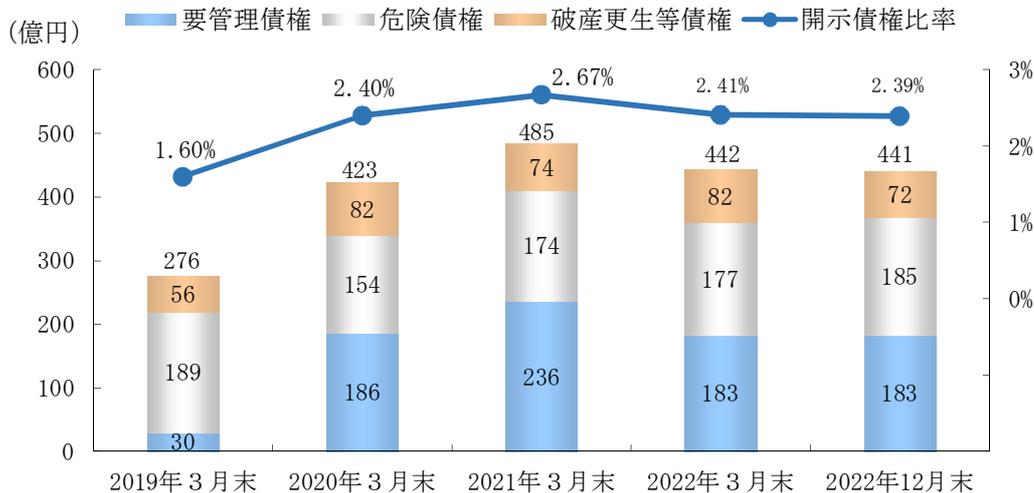


※「その他目的」で時価のある有価証券の評価差額。
満期保有目的債券の含み損益は「数値編」に記載しております。

(5) -1 金融再生法開示債権（単体）の推移

金融再生法開示債権（単体）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた取引先に対する元金返済据え置きなどの支援目的の条件変更等を積極的に実施した結果、2020年3月末より、主に要管理債権が大幅に増加しました。2021年度下半期から、一部事業者の元金返済再開等により債務者区分が良化した結果、2022年12月末における要管理債権残高は2020年3月末並みとなっております。今後も地域金融機関に求められる役割をはたすべく、引き続きお客様支援を実施してまいります。

金融再生法開示債権



(5) -2 自己査定の方

「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（令和2年4月7日閣議決定）において、上述の支援目的の条件変更等を実施した顧客については、債務者区分のランクダウンの対象としない（開示債権としない）特例的な判断も可能とされております。しかしながら、当行においては特例的な措置は採用せず、従来通り顧客の実態に沿った債務者区分判定を実施した結果、2020年3月末より要管理債権が大幅に増加しております。

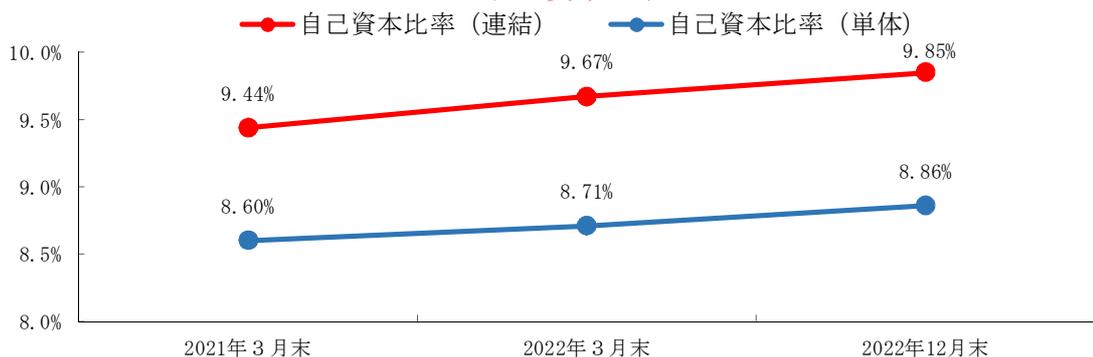
2021年3月末においては一般貸倒引当金の見積り方法を「フォワードルッキングな引当」に変更し、将来のリスク拡大に耐えうる十分な引当を計上いたしました。当行は、更なる経済環境悪化による将来の損失への備えを強化できたと判断しております。

(6) 自己資本比率（連結・単体）の推移

リスク・アセットは増加しましたが、利益の積み上げ等により自己資本が増加したことから、連結自己資本比率は2022年3月末比0.18ポイント上昇の9.85%となり、単体自己資本比率は2022年3月末比0.15ポイント上昇の8.86%となりました。

2023年3月末は、連結は9.7%程度、単体は8.7%程度をそれぞれ予想しています。

自己資本比率



(7) カード業務利益（単体）の推移

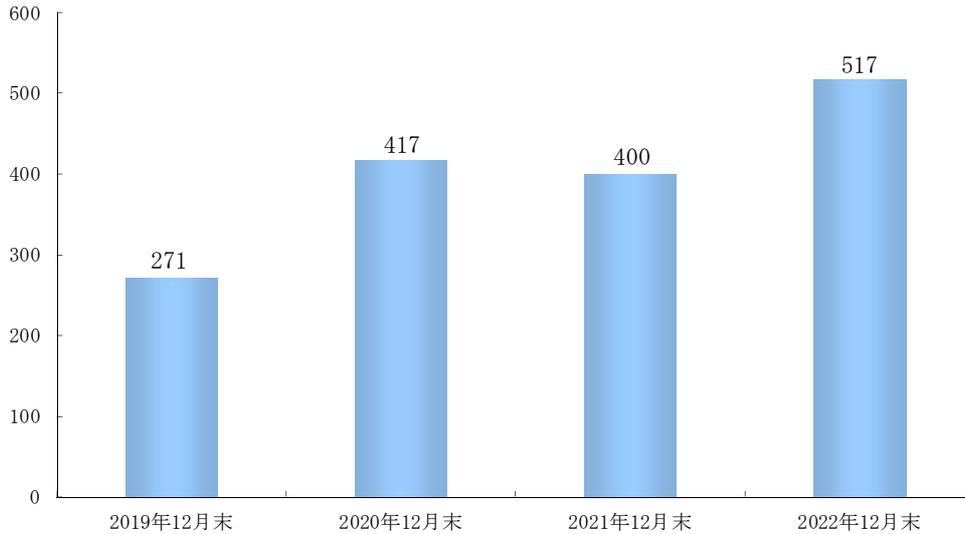
（単位：百万円）

| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 |
|------------|-----------|------------|-----------|
| | | 2021年12月末比 | |
| カード業務利益 | 517 | 117 | 400 |
| カード業務収益 | 1,426 | 422 | 1,004 |
| カード業務費用（△） | 910 | 306 | 604 |

※銀行本体で行っているりゅうぎんVisaデビットカード発行業務およびカード加盟店業務における役務利益。

（百万円）

カード業務利益



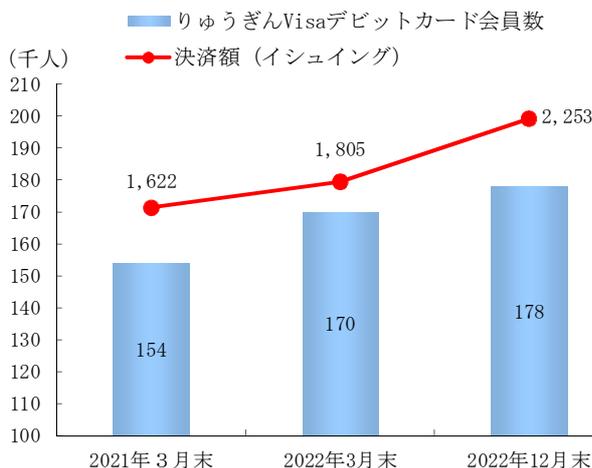
(8) りゅうぎんVisaデビットカード会員数および加盟店契約数の推移

（単位 会員数：千人、契約数：先、決済額：百万円）

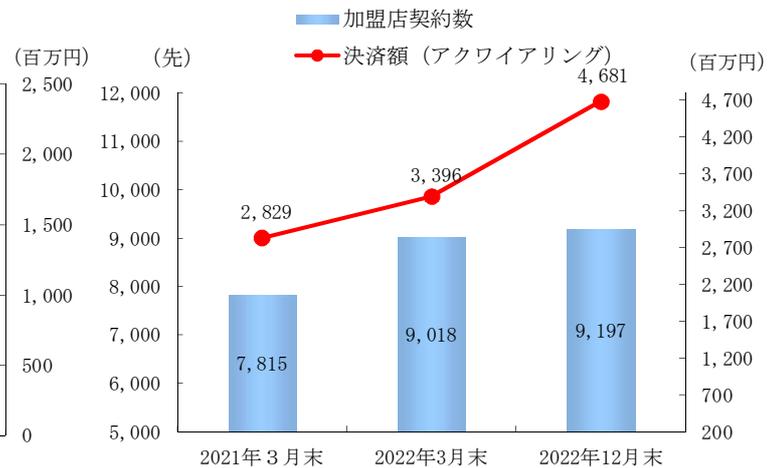
| | 2022年12月末 | | | 2021年3月末 | 2022年3月末 |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|
| | | 2021年3月末比 | 2022年3月末比 | | |
| りゅうぎんVisaデビットカード会員数 | 178 | 24 | 8 | 154 | 170 |
| 決済額（イシューイング） | 2,253 | 631 | 448 | 1,622 | 1,805 |
| 加盟店契約数 | 9,197 | 1,382 | 179 | 7,815 | 9,018 |
| 決済額（アクワイアリング） | 4,681 | 1,852 | 1,285 | 2,829 | 3,396 |

※決済額：1ヶ月間の合計決済額の平均（12月期は4月～12月の9ヶ月平均、3月期は4月～3月の12ヶ月平均）

りゅうぎんVisaデビットカード会員数および決済額



カード加盟店契約数および決済額



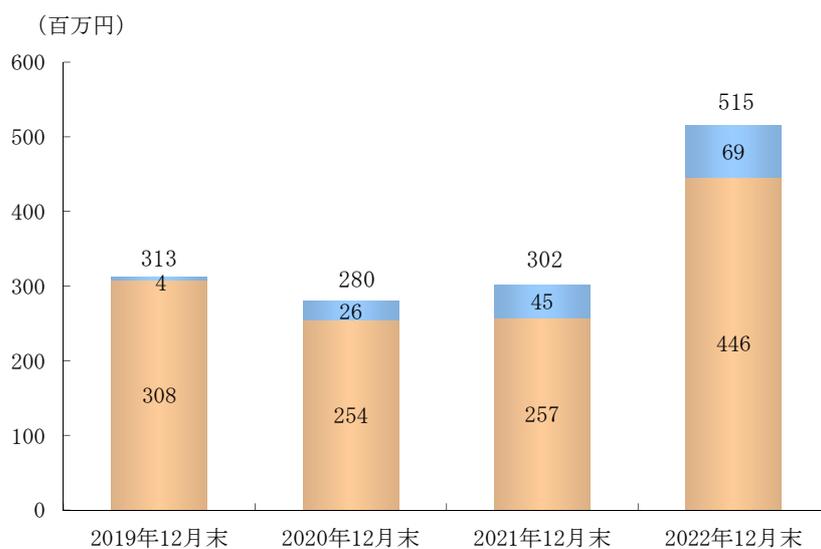
(9) コンサルティング業務利益（単体）の推移

（単位：百万円）

| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 |
|--------------|-----------|------------|-----------|
| | | 2021年12月末比 | |
| コンサルティング業務利益 | 515 | 213 | 302 |
| 法人向けサービス | 446 | 189 | 257 |
| 個人向け資産承継サポート | 69 | 24 | 45 |

コンサルティング業務利益

■個人向け資産承継サポート ■法人向けサービス

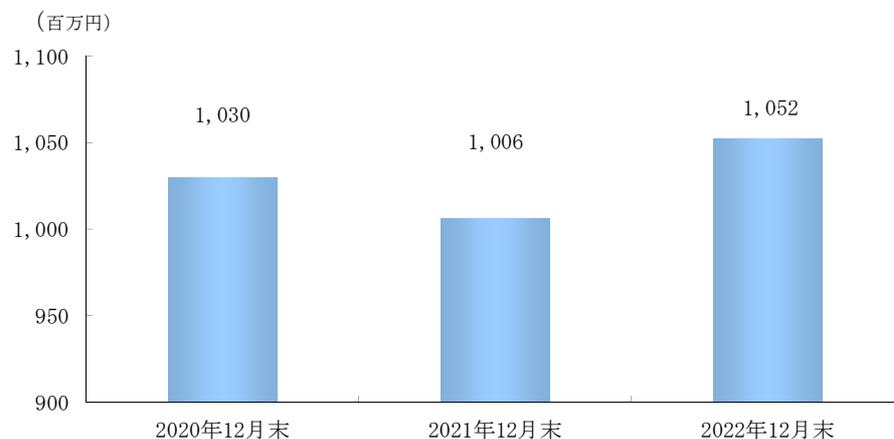


(10) リース業務利益（連結）の推移

（単位：百万円）

| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 |
|---------|-----------|------------|-----------|
| | | 2021年12月末比 | |
| リース業務利益 | 1,052 | 46 | 1,006 |

リース業務利益（連結）



<参考>

預金・貸出金等の状況【数値編】

| (1) 預金【単体】 | | | (単位:億円) | | |
|------------|-----------|--------|-----------|--|----------|
| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 | | 2022年3月末 |
| 預金(未残) | 27,008 | 25,745 | | | 26,095 |
| うち個人預金 | 17,036 | 16,726 | | | 16,599 |
| 預金(平残) | 26,897 | 25,461 | | | 25,493 |

※譲渡性預金含む

| (2) 預かり資産【単体】 | | | (単位:億円) | | |
|---------------|-----------|-------|-----------|--|----------|
| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 | | 2022年3月末 |
| 国債 | 48 | 50 | | | 48 |
| 投資信託 | 555 | 561 | | | 557 |
| 一時払い保険 | 1,313 | 1,269 | | | 1,329 |
| 合計 | 1,917 | 1,881 | | | 1,935 |

| (3) 貸出金【単体】 | | | (単位:億円) | | |
|-------------|-----------|--------|-----------|--|----------|
| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 | | 2022年3月末 |
| 貸出金(未残) | 18,317 | 18,271 | | | 18,222 |
| うち住宅ローン | 5,515 | 5,422 | | | 5,445 |
| 貸出金(平残) | 18,145 | 18,033 | | | 18,067 |

| (4) 時価のある有価証券の評価差額【連結】 | | | | | (単位:億円) | |
|------------------------|-----------|------|-----------|------|----------|------|
| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 | | 2022年3月末 | |
| | 時価 | 評価差額 | 時価 | 評価差額 | 時価 | 評価差額 |
| その他有価証券 | 3,890 | △61 | 3,274 | 3 | 3,398 | △11 |
| 株式 | 16 | 6 | 18 | 4 | 17 | 5 |
| 債券 | 2,802 | △26 | 2,466 | △0 | 2,519 | △5 |
| その他 | 1,071 | △41 | 789 | △0 | 861 | △11 |

(注) 1. 「評価差額」及び「含み損益」は、基準日時点の帳簿価額(償却原価法適用後、減損処理後)と時価との差額を計上しております。
 2. 満期保有目的の債券に係る含み損益は以下のとおりであります。なお、時価のある子会社、関連会社株式は該当ありません。

| (単位:億円) | | | | | | |
|-----------|-----------|------|-----------|------|----------|------|
| | 2022年12月末 | | 2021年12月末 | | 2022年3月末 | |
| | 帳簿価額 | 含み損益 | 帳簿価額 | 含み損益 | 帳簿価額 | 含み損益 |
| 満期保有目的の債券 | 108 | △1 | 202 | 4 | 211 | 3 |

(5) 「金融再生法ベースのカテゴリーによる開示」【単体・連結】 (単位:億円)

【単体】

| | 2022年12月末 | 2021年12月末 | 2022年3月末 |
|-------------------|-----------|-----------|----------|
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 72 | 76 | 82 |
| 危険債権 | 185 | 177 | 177 |
| 要管理債権 | 183 | 177 | 183 |
| 合計 | 441 | 431 | 442 |
| 開示債権比率 | 2.39% | 2.34% | 2.41% |

【連結】

| | 2022年12月末 | 2021年12月末 | 2022年3月末 |
|-------------------|-----------|-----------|----------|
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 97 | 104 | 102 |
| 危険債権 | 186 | 178 | 177 |
| 要管理債権 | 186 | 192 | 186 |
| 合計 | 470 | 475 | 466 |
| 開示債権比率 | 2.54% | 2.52% | 2.54% |

(6) 自己資本比率(国内基準)【単体・連結】

| | 2022年12月末 実績 | 2023年3月末 予想値 | 2022年3月末 実績 |
|----------|-----------------|-----------------|----------------|
| 単体自己資本比率 | 8.86% | 8.7%程度 | 8.71% |
| 連結自己資本比率 | 9.85% | 9.7%程度 | 9.67% |

(注) 上記予想値は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い変動することがあります。